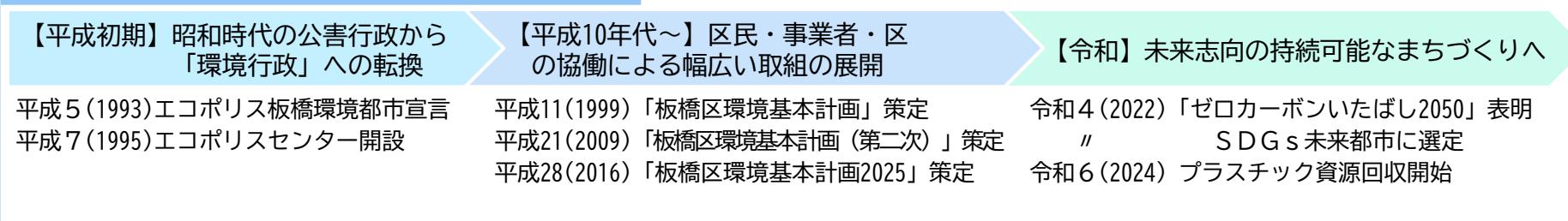


1 計画の基本的事項

(1) 計画策定の背景と基本的な考え方



<策定の基本的な考え方>

- 次期基本計画との整合を図り策定
- SDGs未来都市の実現
- 中長期的な施策+短期のアクションプランを備えた総合的な計画

(2) 計画の位置づけ

「板橋区基本構想」、「板橋区基本計画」で示された施策を環境面から具体化する計画

(3) 計画の期間

令和8(2026)年度から令和17(2035)年度まで(概ね10年間)

2 区の環境を取り巻く現状

(1) 国内外の動向

- ①持続可能な開発目標 (SDGs)
- 経済・社会・環境の3つの側面のバランスがとれた社会を目指す取組の広がり



②第六次環境基本計画

- 将来にわたって「ウェルビーイング/高い生活の質」をもたらす「新たな成長」の実現
- 環境収容力を守り環境の質を上げることによって、経済社会が成長・発展できる「循環共生型社会」の実現

③脱炭素・気候変動対策

- 2050年までのカーボンニュートラルの実現

④循環型社会

- 循環経済(サーキュラーエコノミー)への移行

⑤生物多様性

- 2050年ビジョン「自然と共生する社会」
- 2030年 ネイチャーポジティブ(自然再興)の実現

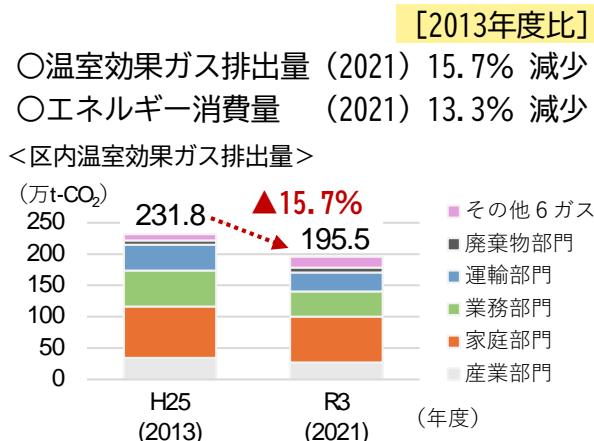
(2) 区の現状と特性

①区の概況

- 人口、世帯数は現行計画策定時より増加、最新の推計(令和6年9月)ではしばらく人口増加が続く見込み
- 地形は北部が低地、南部が高台となっており、その間の崖線には比較的樹林地が多く残存、事業所数は減少傾向

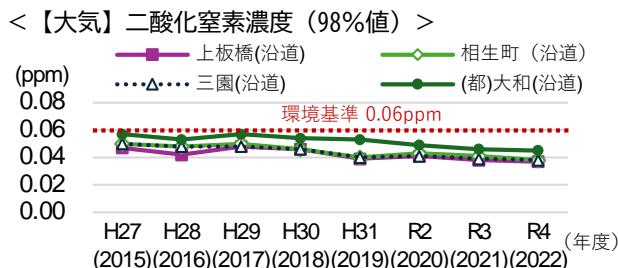
②各分野の現状と特性

脱炭素



生活環境

- 大気環境、河川の水質とも概ね良好な状態を維持
- 道路交通、建設作業等からの騒音が課題



気候変動適応

- これまでの変化
年平均気温が上昇傾向
- 将来の変化予測
気温は現在よりも上昇、真夏日・猛暑日・熱帯夜、短時間強雨が增加する予測

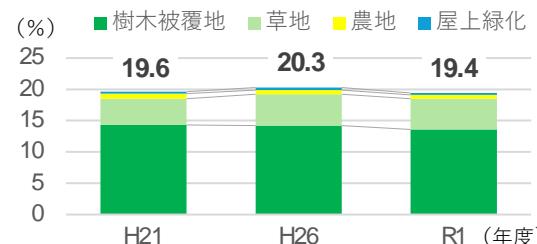
<21世紀末の猛暑日や熱帯夜などの変化>

	2℃上昇シナリオ	4℃上昇シナリオ
猛暑日	6日程度増加 ↑	31日程度増加 ↑
真夏日	18日程度増加 ↑	60日程度増加 ↑
熱帯夜	14日程度増加 ↑	58日程度増加 ↑
冬日	16日程度減少 ↓	37日程度減少 ↓

(東京管区気象台「東京都の気候変化」より)

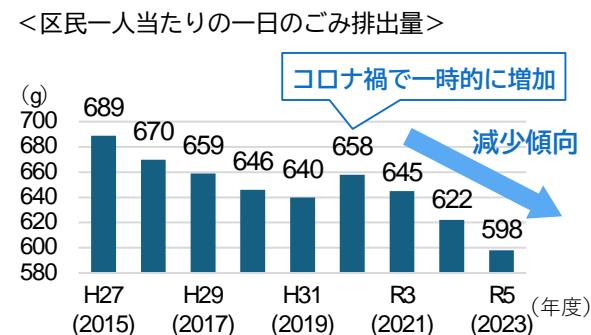
自然環境

- 緑被率※は、平成21(2009)年度以降、徐々に減少しているもの、多様なみどりの環境が存在
- <緑被率の推移>



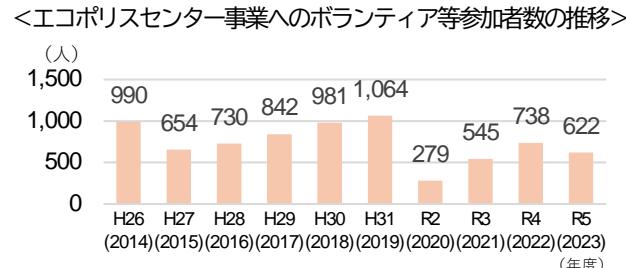
資源循環

- ごみの総排出量、区民一人当たりの一日のごみ排出量は減少傾向



学びと協創

- エコポリスセンター事業、教育現場における環境学習を中心に多層的に環境教育、人材育成、連携・協働を展開



※緑被率：緑被地面積(樹木被覆地、草地、農地、屋上緑化)の区面積に占める割合

3 区民・事業者の意識

各調査結果から集約したキーワード	脱炭素	気候変動適応	資源循環	生活環境	自然環境	学びと協創
	○地球温暖化 (地球にやさしい) ○未来	○気候変動 ○安心・安全	○ごみの削減 ○資源循環(有効利用)	○きれいな街(美化) ○快適な生活	○緑・自然 ○共生	○連携・協創 ○つながり(世代) ○活動・体験

(1) 区民・事業者・児童生徒アンケートの意識

①区民 (対象 2,000人 回答数 504人 回答率 25.2%)

環境問題への関心
○地球温暖化・気候変動に最も高い関心
○次いで、ごみの減量や食品ロス、緑・水辺の維持・保全、省エネルギー・創エネルギーに関心

区が今後重点的に取り組むべきこと(上位3項目)
○気候変動対策(緩和・適応)を重視
・豪雨の頻発などに対応した水害対策 [53.2%]
・気候変動に対応した熱中症対策 [44.0%]
・大気や水質、騒音等による健康や生活環境への被害の防止 [40.1%]

区民が今後重点的に取り組むべきこと(上位3項目)
○ごみの削減と資源の有効利用を重視
・ごみの削減 [67.7%]
・資源の有効利用 [61.1%]
・気候変動への備え [56.0%]

②事業者 (対象 500社 回答数 127社 回答率 25.4%)

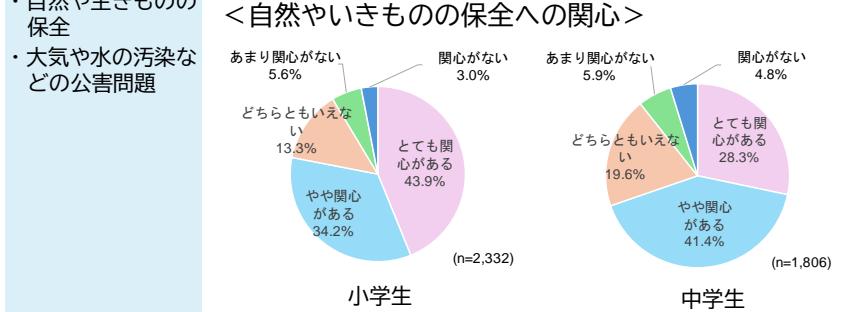
重要視している環境課題
○省エネルギーを最重要視
○次いで、資源のリユース・リサイクル、廃棄物の排出削減、近隣の生活環境への配慮などを重視

区が今後重点的に取り組むべきこと(上位3項目)
○気候変動対策(緩和・適応)を重視
・豪雨の頻発などに対応した水害対策 [53.5%]
・気候変動に対応した熱中症対策 [40.9%]
・区民生活、事業活動における省エネルギーの取組の定着 [26.8%]

事業者が今後重点的に取り組むべきこと(上位3項目)
○ごみの削減と資源の有効利用を重視
・ごみの削減 [55.9%]
・資源の有効利用 [46.5%]
・事業活動における省エネルギーの取組の定着 [40.9%]

③児童・生徒 回答数 区立小学校5年生 2,332人 回答率 58.8%
区立中学校8年生 1,806人 回答率 58.8%

環境問題への関心
○いずれの問題も、半数以上が関心があると回答
○小学生、中学生とも「自然や生きものの保全」「地球温暖化」への関心が特に高い



学びたい環境問題
○環境問題を学ぶ主要な方法は「学校の授業」「テレビ」「インターネット」
○学びたい環境問題は、小学生、中学生とも「地球温暖化」が突出(約6割の回答者が選択)

(2) ワークショップ

①区民ワークショップ

開催日：9月14日(土)・28日(土)・10月5日(土)
参加者数：延べ45名

板橋の環境の変化
・緑、自然が減っている
・環境への関心、意識は高まっている
・意識を行動に移せる場がまだ少ないなど

板橋の環境の未来
・緑や自然が大切にされている
・安全、安心で災害に困らない
・多様な人々、自然との共生の暮らしなど

未来を実現するために「できること」
・環境を守る・つくる+育てる
・様々な主体をつなぐ
・子どもたちの体験を広げる
・目標に基づく行動の実践 など

②子どもワークショップ

開催日：8月4日(日)・6日(火)・22日(木)
場所：板橋区立エコポリスセンター

今の板橋区の環境
いいところ 自然や公園があるところ
よくないところ ポイ捨てが多い

今こうなったらいいと思う板橋区の未来の環境

地球温暖化がない	ポイ捨てがなくきれい	自然がいっぱい
日陰があって涼しい	みんなが過ごしやすい	花がいっぱい
	月や星が見える	たくさんの生きものがある

(3) 関係団体ヒアリング

○区民への発信、体験を基に考える環境学習の重要性、主体間の緩やかな関係構築・支え合いなど、環境に関する取組の推進方を重視

<区民への発信>

- ・区役所のリーダーシップの発揮が必要
- ・活動主体が能動的に動く働きかけが必要

<環境学習・環境教育>

- ・関心喚起から一歩踏み込んだ体験・探求につながる学習機会が必要
- ・学校と環境セクションの連携、大学による支援
- ・地域活動の拠点(地域センターなど)の積極的な活用

<協創・推進体制>

- ・区役所内部の横連携の強化
- ・様々な主体が集まり、問題意識の共有、意見交換ができる、ゆるやかな関係構築の場づくり(環境カフェ等)
- ・事業者、研究機関等への実証フィールドの提供→協働、実践の促進
- ・事業者の取組を支える「ハンズオン支援(専門家派遣)」の必要性

4 将来像と6つの基本目標



区民・事業者・区等が一体となった計画の推進

(1) ゼロカーボンいたばし2050の実現

2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロをめざすゼロカーボンの実現に向けて、区民・事業者・区等が一体となって、区民生活・事業活動及びまちづくりの中で、省エネルギーとエネルギーの効率的な利用、再生可能エネルギーの利用に取り組み、着実に温室効果ガス排出量を減らしていく。

(2) 気候変動に備えるまちの実現

平均気温の上昇、真夏日・猛暑日の増加、豪雨の頻発等、地球の気象の変化が激しくなっている中で、気候変動に備え、安心して暮らせるまちをめざして、暑さ対策、風水害に対する防災・減災、区民の健康や産業・経済活動における備えを進めていく。

(3) 資源を大切にする循環型都市の実現

環境と経済のバランスに配慮した、循環型都市をめざして、ごみとなるものをできる限り減らし、再生利用しやすい製品を選ぶとともに、再資源化可能なものやリユースできるものは資源として循環させる暮らし、事業活動を促進していく。

(4) きれいな空気、水、クリーンな住環境の実現

安全で安心して暮らせる生活環境の実現に向けて、大気の汚染や水質の汚濁、騒音等への対策を進める。

(5) 自然の恵みと共生するまちの実現

市街地化が進んでいる板橋区において、自然の恵みと共生するまちをめざして、動物や植物等の生物と、それを支えるみどり（崖線のみどりや自然とふれあえる公園や農地、河川、湧水など）が調和する生物多様性を保全・回復していく。

(6) 持続可能な未来を担う人づくり

予測のつかない未来を生き抜き、持続可能な社会を実現する力を持つ人づくりをめざして、区民・事業者・区等が連携し、環境について興味や関心をもって継続して学び、環境問題や課題に主体的に行動できる人づくりに取り組むとともに、学び・実践の裾野を広げるネットワークづくりを進めていく。

5 施策の方向性

将来像

【検討中】

基本目標	施策の着眼点と取組の方向性		包含する計画
(1) ゼロカーボンいたばし2050の実現	区民生活・事業活動の省エネ・再エネ利用促進	二酸化炭素排出量、エネルギー消費量の約6割を占める家庭と事業所における省エネルギー、再生可能エネルギーの利用拡大、住宅・建物のゼロエミッション化を進める。	地球温暖化対策実行計画 (区域施策編)
	ゼロカーボンに貢献するまちづくりの推進	地域全体でエネルギーを効率よく利用できるまちづくり、区においてゼロカーボンに向けた取組を率先的に進めるとともに区の事務事業全体の環境負荷低減に努める。	
	スマートシティの推進	先進技術の活用や、環境の視点でGXやDXの取組みを推進し、暮らしやすいまちづくりをめざす。	同 (事務事業編)
(2) 気候変動に備えるまちの実現	気候変動に対応したライフスタイルの推進(熱中症対策等)	暑さをしのぎ、和らげる環境づくり、熱中症予防対策を進め、夏季の暑さによる健康被害を防止する。	地域気候変動適応計画
	気候変動に対応した安心・安全なまちづくり(風水害対策)	風水害のリスクの増加に備え、都市型水害や土砂災害への対策や、区民・事業者の防災・減災の取組を促進する。	
(3) 資源を大切にす循環型都市の実現	区民生活における3Rの推進	ごみの削減や排出ルールに関する普及啓発などにより、区民の3R行動(リデュース・リユース・リサイクル)を推進する。	
	ごみの発生抑制・資源循環の推進	生産、流通、消費に関わる主体が協力して資源の回収、廃棄物の削減などに取り組む活動を促進する。	
(4) きれいな空気、水、クリーンな住環境の実現	良好な生活環境の確保	大気汚染、水質汚濁、騒音等の都市生活型公害などの防止に向けた対策、区民の健康や環境に影響を及ぼす有害化学物質への対策を継続する。	
	まちの美化の推進	地域と連携した美化活動、路上での喫煙マナーの普及啓発などにより、暮らし、訪れるあらゆる人にとって快適に過ごせるまちをつくる。	
(5) 自然の恵みと共生するまちの実現	みどりや水環境の保全・再生	生物の生息・生育環境となるみどりの保全・再生を進めるとともに、希少な野生動物の保全と外来種対策などにより在来の生物、地域の生態系の保全を図る。	生物多様性地域戦略
	生物多様性の理解浸透とその恵みの持続的利用	生物多様性、生物多様性が抱える課題(危機)に対する区民、事業者の理解の醸成、生物多様性に配慮した消費行動・事業活動を促進する。	
(6) 持続可能な未来を担う人づくり	主体的に行動する人づくり	教育機関、環境活動団体、事業者、行政などが連携・協働して体験・学びの場や機会をつくっていくとともに、主体的に環境保全活動を担う人材育成を進める。	環境教育等行動計画
	協働の取組促進	これまでの取組により蓄積されてきた協働の取組をさらに促進するとともに、持続的な活動を支えていくため支援体制を充実させる。	

6 推進体制と進行管理

推進体制

- 板橋区資源環境審議会、庁内組織(「エコポリス板橋」推進本部)を中心とした進行管理
- 環境教育推進協議会、エコポリス板橋環境行動会議と連携した計画の推進

進行管理

- PDCAサイクルによる進行管理の継続
- ・指標を用いた中長期の成果の評価と、短期の活動状況の点検
- ・「板橋区環境白書」による点検・評価結果の公表